

第14回タイムス杯少年サッカー新人戦

第十四回市民タイムス杯少年サッカー新人戦(松本市サッカー協会、市民タフ少年団連合会、市民タイムス主催、カガミグループ協賛)は十四日、松本市のあずさ運動公園で、決勝トーナメントを行い、裾花フットボールクラブ(長野市)が2-1で開智サッカースポーツ少年団(松本市)を振り切り、初優勝を飾った。開智は二年連続の準優勝。昨年よりチーム多い64チームが、二日間のトーナメントで頂点を決した。決勝戦は、破壊力を誇る裾花の波状攻撃を、開智が必死に防ぐ展開。同点のまま終了直前までもつれたが、後半18分、裾花主将の岡田貴洋選手が決勝ゴールを押し込み、接戦をものにした。

晴らしい試合が続いた。皆さんの首にかかっているメダルは、太陽のように輝いています」と選手をねぎらい、中山英明大会委員長が「目標にされるチームとして、これからも一生懸命精進して頑張ってください」と激励。谷津審判委員長は「実力が均衡した好試合が続いた。今後もしっかり練習をねがいます」と激励し、県少年サッカー界をリードしてください」と締めくくった。

来季につなぐ課題見えた

開智 ○二年連続の準優勝に泣いた開智だが、西村勇治監督は「課題がはっきりした。いい勉強になった」と収穫を強調。ルースボールへの寄せやプレスのスピードなど、課題を挙げながら、力強く再起を誓った。強敵上田エンシャンとの準々決勝で、見事な同点ゴールを決め、PK戦のキーパーも務めた胡桃沢主将(〇も「残念だけれど、いっぱい勉強になったから良かった」)。少しだけ肩を落とした後、笑顔を取り戻していた。

裾花FCが初優勝



初優勝を飾った裾花フットボールクラブ

雪辱ならず開智 2年連続準V

▽決勝
裾花 2 (1-1) 1開智
▽得点者【裾】久米田、岡田【開】竹内

【評】運動量で上回る裾花が開智を振り切った。裾花は前半5分、MF辰野純のスルーパスを、FW久米田拓人が押し込み先制。直後に追い付かれたが、後半18分、ゴール前で久米田が右に振った後、FW岡田貴洋が詰めて決勝をつけた。

○：塩尻広丘は過去のタイムス杯で「おそろく勝ったことがない」状態から3位に入る大躍進。準々決勝の宮田戦で、今季からサッカーを始めたFWマンドバニ・ロドリゴ選手(コガ)が、相手クリアを決めるなど、イレブン

は急激な成長ぶりを発した。南川辰雄監督(〇)は「運もあった」と謙遜しながらも「大きな自信になっただろうね」とにっこり。満足な表情で、来季に意欲を燃やしていた。



2年連続準優勝の開智サッカースポーツ少年団



3位の塩尻広丘サッカークラブ



3位の白田町FCスポーツ少年団

64チームの頂点を目指し、激しく競り合う両チーム選手(裾花-開智)



○：試合終了と同時に泣き出す選手も出て、裾花は感激の初優勝。大会中ほかのチームを圧倒する計2得点を奪い、決勝はスピードあるプレーで終始試合を支配、余裕の優勝に見えた。だが、内容の素晴らしさは、イレブンが一瞬も気を抜かなかった結果、喜びの涙は、緊張から解放された感情の爆発でもあった。決めたかった」と、最後まで集中していたことを説明。吉田和幸監督(〇)も「何よりひたむきにやることが良かった」と、まず取り組む姿勢を評価した。2回戦では昨年惜敗した鎌田、準決勝はアンフィニ長野杯で敗れた白田町に見事に雪辱。ひたむきなサッカーで、頂点に上りつめた。

裾花 3	0	0	0	白田町
開智 4	2	0	0	塩尻広丘
裾花 6	3	1	2	宮野
白田町 2	1	0	0	吉田
開智 0	0	0	0	上田
開智 4	3	0	0	エンシ
開智 0	0	0	0	ヤン
塩尻広丘 1	0	0	0	宮田



相手クリアミスに鋭く反応、決勝ゴールをけりこむ(塩尻広丘-宮田)